千葉シティトライアスロン大会ローカルルール

競技全般は、JTU（公益社団法人日本トライアスロン連合）競技規則 https://archive.jtu.or.jp/jtu/pdf/rulebook_20190123.pdf に則り行い、また、第6条（規則の補足）に基づきこのローカルルールを策定します。選手は、JTU競技規則第2章選手規範を遵守しスポーツマン精神とフェアプレイの精神により競技を行うこととします。

1 競技全般

(1) 大会出場資格の譲渡の禁止

- 出場資格の譲渡及び、譲渡された資格での出場を禁止します。譲渡資格で出場した場合には失格とします。

(2) 悪天候時及び災害等の措置

- 雨天でも競技を行います。
- 天候や競技環境が悪化した場合には、距離の短縮や競技内容の変更、またスイム競技が、ラン競技に変更となる場合があります。
- この場合、リレーのスイム競技がラン競技となる場合がありますので、スイム担当の選手はランニングシューズ等の準備をしてください。
- 開催地での災害等の発生時、競技中の事故での救助活動時には、競技を中止することがあります。また、開催地以外で起きた災害でも状況を勘案して大会を中止することがあります。
- 競技内容変更の際の詳細は、大会ホームページ・SNS及び会場アナウンスにてご案内します。
- 競技短縮、中止の場合でも参加料の返金は行いませんので、予めご了承ください。

(3)競技説明会

- 安全管理のためWEB競技説明会と、確認テストを行います。選手は必ずWEB競技説明会を視聴し、確認テストを受けなければレースに出場できません。

(4)レースウエア

- フロントジッパー無しのウエアを推奨します。ジッパー付きのウエア（バイクジャージなど）も着用可能ですが、競技中にジッパーを開ける事は禁止とします。

(5)イヤフォン等の禁止

- イヤフォン等の外部の音を遮断するものを耳に装着しての競技は、危険なため禁止とします（スイム競技での耳栓を除く）。

(6) レースナンバー

- 事前に①ボディナンバーシール②レースナンバーカード（ゼッケン）③ヘルメットステッカー④バイク用ステッカーを配布します。ご自身のレースナンバーを確認の上、指定された箇所に表示をしてください。
- ボディナンバーシールは、両腕の外側に貼付してください。
- レースナンバーカード（ゼッケン）は、バイク競技中には背面に、ラン競技中には前面に表示してください。レースナンバー用ベルトは使用可とします。
- ヘルメットステッカーは前面に、バイク用ステッカーはサドル下部のフレームに貼付してください。

(7) タイミングベルト（計測器具）

- スイム競技の入水前に配布するタイミングベルトは、競技中必ず足首に装着してください。
- ラン競技でフィニッシュするまで、外さないでください。装着せずにスタートした場合、または競技途中で外したままの場合には失格となります。

(8) 途中棄権の申告

- 途中棄権する場合、テクニカルオフィシャル（審判員）に申告してください。タイミングベルトはテクニカルオフィシャルに手渡してください。

(9) 計測チェックポイント

- コース上の計測チェックポイント不通過は、失格となります。

(10) 制限時間

- スタンダード部門（リレー含む）

スイム：スタートから60分
バイク：スタートから2時間40分
ラン：スタートから4時間

- スプリント部門（パラスプリント含む）

スイム：スタートから30分
バイク：スタートから1時間20分
ラン：スタートから2時間

- ビギナー部門

スタートから50分

(11) 周回チェック

- 個別の周回数を競技中にスタッフが教えることはできません。事前にご自分の周回数を確認の上、サイクルコンピューターやその他の方法で周回数を確認できるようにして参加してください。周回数不足は、失格となります。

(12) リザルト

- 速報版を大会会場に掲示します。
- 公式記録は、大会終了後数日以内に大会ホームページに掲載します。

(13) エイドステーション

- スイム、ランコースに設置します。バイクコースにはありません。

(14) 更衣テント

- 稲毛海浜公園プール内に更衣室、コインロッカーがありますのでご利用ください。（手荷物預かり所はございません）

(15) 救護テント

- 会場内に救護テントを用意します。
- 医師、看護師が待機し、応急措置を行います。

(16) 体調管理

- 新型コロナウイルス感染症対策のため、選手は大会２週間前から体温と体調を記録して提出してください。
- 受付で検温を行います。体温が37.5℃以上ある選手は感染防止のため競技への参加をご遠慮願います。
- トライアスロン競技は、大きく変化する環境下でのスポーツであり、またコンタクトスポーツの側面もあることを認識していただき次の点等について確認の上、参加をしてください。
- 健康上不安のある方はあらかじめ、主治医や医療機関にご相談いただき指示に従ってください。

- 当日の体調について不安のある方は、救護テントの医師にご相談ください。
- 選手、ボランティア、大会関係者は、大会保険に加入しますが、治療費を全額保証するものではありません。また持病のある方などは、内容によっては保証されない場合もあります。
- 医師等が競技に参加可能と判断できない体調等の方には、参加をお断りする場合があります。
- 体調等の事実を隠して参加し、体調が悪化した場合には主催者は、一切責任を負いません。

(17) 写真・ビデオ撮影

- 家族、応援者に限り撮影を認めます。撮影を希望する方は大会本部で撮影申請書を出して許可をもらってください。不健全な目的での写真やビデオ撮影（盗撮）を行わせないため、会場で撮影している方に大会関係者が撮影内容を確認させていただく場合がありますので、ご協力をお願いします。また不審な撮影者を発見した場合は、大会本部または近くの係員にお知らせください。

2 スイム

(1) ウエットスーツ

- 着用義務とします。
  ただし、ビギナー部門については着用推奨とします。

(2) レスチューブ（膨張式緊急浮力体）

- 装着を認めます。
  使用した（膨張させた）場合は、大会スタッフが健康状態を確認した上で競技を継続できます。順位は記録せず表彰対象外とします。膨張させたレスチューブを利用して前進した場合は、失格となります。

(3) スイムスキップ

- 認めます。タイミングベルトを受け取る前、または試泳後にテクニカルオフィシャル（審判員）に申告してください。スイムスキップした選手はバイク競技からスタートとなりますので、記録は参考記録となります。
- ビギナー部門において、泳ぎに不安がある選手は自己申告により浅瀬の歩行が可能です（ただし、記録は参考記録となります）。

(4) スタート

- スタンダード部門（リレー含む）、スプリント部門はローリングスタート（10 人ずつ 10 秒ごとにスタートを行い、混雑を緩和させるスタート方法）とします。
- ビギナー部門及びパラトライアスロン部門は、ウェーブスタート（一斉スタート）とします。

3 トランジションエリア

- (1) 競技用具の設置
- トランジション入口でヘルメットチェック、バイクチェックを実施します。
- 指定された時間内にバイク、ラン競技に必要な物を、設置してください。

(2) 競技用具の回収

- 競技の安全のため、トランジションエリアの解放の時間まで、お待ちください。
- トランジションの出入りの際は、レースナンバーカード（ゼッケン）が必要です。バイク回収の際は、バイクのレースナンバーと照合します。

4 バイク

(1) ドラフティング、ブロッキング

- 禁止です。違反はペナルティの対象となります。
- ドラフトゾーンは前方選手の前輪先端から後方10mです。
- ペナルティを科された選手は、ペナルティボックスに表示されたレースナンバーを確認し、自主的にペナルティボックスに入るようにしてください。※ペナルティボックスに入らないままゴールした選手は失格となります。

(2) ヘルメット

- バイク競技用の硬質ヘルメット（公益財団法人日本自転車競技連盟（JCF）の基準に適合したものと同等のものを推奨）を、その取扱説明書に従い正しく着用してください。
- バイクをラックから外す前にヘルメットを着用し、ストラップを締めてください。
- バイクをラックに掛けた後にストラップを緩めることができます。
- ビギナー部門のヘルメット特別規定
  ロードレーサーを使用せず、かつ、伸縮しないストラップの構造である場合に限りバイク競技用以外の硬質ヘルメットを使用することができます。

(3) バイクの種類

- スタンダード部門・スプリント部門 ： 長距離走行に適したロードバイク及びTTバイクを使用してください。スプリント部門ではクロスバイクの使用を認めます。
- ビギナー部門： バイクではママチャリ、折畳み自転車及びフラットバーの使用が可能です（リカンベントは不可）
- パラトライアスロン部門（パラビギナー含む）：障害の程度に応じたバイクをご使用ください。

(4) バイクボトル

- バイクコースにはエイドステーションがありませんので、必ずボトルを携行してください。
- 落下防止のためバイク用のボトルとケージを使用してください。

(5)スマートフォンでの計測について

- スマートフォンをサイクルコンピューターとして使用するのは可能ですが、ハンドル等に固定して使用してください。手に持っての使用は禁止します。

(6) 乗車ライン、降車ライン

- 乗車方法 ・・・ 片足が乗車ラインを越えた後に、完全に片足が地面に着いてから乗車をしてください。
- 降車方法 ・・・ 降車ライン手前の地面に、片足が完全に着いてから降車をしてください。

(7) DHバー

- 安全・確実なハンドル操作を行うため、稲毛海浜公園内でのDHポジションでの走行を禁止します。

(8) バイク走行時の注意点

- バイクコースのほとんどが対面通行となっています。反対車線にはみ出しての走行（追越など）は重大事故につながりますので禁止します。
- キープレフト（左側通行）を遵守してください。

5 ラン

(1) フィニッシュ

- 帽子・サングラスを外すことを推奨します。

(2) 同伴フィニッシュ

- 感染症防止のため禁止といたします。

6 リレー部門

(1) タイミングベルト

- タイミングベルトは全選手に配布します。（「たすき」代わりに使用しません）。

(2) 引継ぎの場所

- 次の競技者への引継ぎはトランジション内のリレーゾーンで行います。

(3) 引継ぎの方法

- 次の競技者は、引継ぎラインの手前で待機し、タッチをせずに前の競技者が引継ぎラインを超えてからスタートしてください。
- 引継ぎに不正なスタートがあった場合には、審判がストップアンドゴーを指示します。

(4) 繰上げスタート

- 制限時間内に次の種目に引き継げなかった場合は、繰上げスタートとなります。次の競技者が競技をすることはできますが、記録は参考記録となります。

7 パラトライアスロン

(1) カテゴリー

- 旧カテゴリ（TRI1～6）を適用します。(2013ITU競技規則17章参照)

(2)競技中の支援等

- TRI６カテゴリーにおいて、選手の安全性を考慮し、ブラックアウトゴーグルを使用する必要はありません。
- 異性ハンドラーを認めます。
- パラビギナー部門、パラビギナーリレー部門は、TRI1カテゴリー以外であっても、登録済のハンドラーによる競技中の支援を認めます。（選手１名に対し、原則１名まで）
- パラビギナー部門、パラビギナーリレー部門において、泳ぎに不安がある選手は自己申告により浅瀬の歩行が可能です。バイクに不安がある選手は、自己申告により大会側が用意した固定バイクローラー台への変更が可能です。競技中の支援を認めます。（ただし、記録は参考記録となります。）
- パラスプリント部門TRI1選手のWCを使用したランFinish地点は、トランジション入口手前とします。